



アイズ有限会社
取締役社長 伊東良夫

経歴

療養型病床群(老人病院)
有料老人ホーム
特別養護老人ホーム
認知症対応型生活介護、
訪問介護
老人保健施設居宅介護支援

資格

主任介護支援専門員
介護福祉士
社会福祉主事任用

平成17年8月
アイズ有限会社設立
平成17年10月
あいず市原ケアサービス開設
平成18年12月
あいず市原デイサービス開設
平成21年5月
あいず牛久デイサービス開設
平成24年10月
あいず五井デイサービス開設
平成27年9月
あいず牛久デイサービス閉鎖

ご挨拶

私は平成5年から介護関係の仕事につきましたが、それ以前は接客業を中心として仕事をしておりました。
この仕事を始めてみて、こういう世界もあるんだと言うことに驚きを隠せませんでした。
老人病院ではリハビリ助手（リハビリとは名ばかりで良くするためのものではない、良くて現状維持）。看護助手（排泄、入浴、食事、着替え等の介護）今思えば入院しているお年寄りのことよりも毎日、**決まった時間に決まった介護をする**というものでした。

その後、特別養護老人ホームで働いた時に運命的な出会いがあり、毎日遅くまで話し合ったものでした。それこそ深夜0時過ぎることもあり家族に迷惑ばかりかけていました！
それで「介護って何？と見つめなおすことになりました」その時に思ったのが介護を受けられている方はどう思っているのか。いまは当たり前前の考え方ははずですが、**自分の受けたい介護が受けられているのか**。そんなことを考えるようになりましたが、自分の受けたい介護をみんなが要求したら、対応できるはずもありませんので思っているだけでした。

そんな時に認知症対応型共同生活介護（グループホーム）の開設の話があり飛びつきました。
なんとと言っても少人数、個別介護の最先端の考えに基づく施設ですから、でも落とし穴が、相手は自宅で過ごせない認知症（当時は痴呆と言っていました）ですから、好き勝手に行動するし、世間の常識は全く通じません。
認知症の方自体は、それまでも経験がありましたが「全員が認知症」という特別な世界です。
でも、ハタと「**認知症の人って正直なだけ？**、思ったことを口にし、思った行動をする」それに対して介護者が対応できないだけなんです。

クリア（認知症じゃない）な人もいろいろ思うし、行動したいはずだけれど、そうすれば社会生活が成り立たないことを知っていて、一般的に理性で押さえます（まれにそうじゃない人もいて厄介者と言われます）。
これらの経験から、介護支援専門員として一人の人間と向き合いたいと思い老人保健施設を母体とする居宅介護支援事業所のケアマネジャーの仕事に就きました。
今思えば非常に良い経験をさせていただきましたが、しがらみのない仕事がしたくて居宅介護支援事業所の独立を決心しました。

独立してすぐに介護保険法の改正があり、俗にいう一人ケアマネでは生活が出来なくなり、元々視野にあったデイサービスの開設を思い立つのですが、人材もない先行きも全く分からない状態で、息子と妻に話をするとうまく手伝ってくれるということで、開設を決意しました。
どんなデイサービスにするのかは、すぐに決まりました。当時市原市では珍しい小規模デイサービスで**長年思っていた個別介護が出来る**と自宅をリフォームして始めました。

私は以前の経験から介護事業をお客様と接する接客販売業と
思っています。**売っているものは一人一人に合った介護です**。
私が目指すものはお客様が必要とする介護と望む生活を一緒に考え提供する事、お客様が介護サービスを受けてほんの少しでも良いからよかったと思ってくれることです。言葉に出せば簡単で漠然としています、関わりを通じてその一役を担えれば嬉しいです。

取締役社長 伊東良夫